

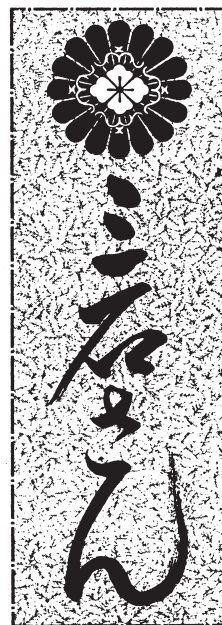


新元号「令和」



剣璽等承継の儀の様様

(株扶桑社『皇室Our 意Imperial Family』より転載)



発行所
 三石神社社務所
 神戸市兵庫区
 和田宮通3丁目2-51
 TEL (078)671-2531
 FAX (078)671-7667
 E-mail info@mitsuishi.or.jp
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
 ○ お伊勢さんのお神札(神宮大麻)と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
 ○ お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

奉祝 天皇陛下御即位

御譲位による皇位継承と新元号「令和」

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第一二五代天皇は四月三十日（昭和二十一年）で退かれ、翌五月一日から皇太子殿下が第一二六代新天皇の地位に即かれ、「令和」の御代となりました。

このように天皇が皇嗣（皇太子。例外もある）に「譲位」される御代替りは、飛鳥時代の皇極天皇（女帝、六四五年）から江戸時代の光格天皇（一八一七年）まで、六十例ほどみられ、今回は約二百年ぶりである。天皇に関する制度は昭和二十一年十一月三日に公布された「日本国憲法」により「日本の象徴」（国家の代表）、「日本国民の象徴」（国民の中心）と位置づけられ、その皇位はご子孫に承継される「世襲のもの」と定められ、具体的な継承者の資格・順位などは「皇室典範」で決められているが、その第四条には「天皇が崩じたときは、皇嗣が直ちに即位する」とあり、天皇は終身在位するものと考えられていた。ところが、天皇は数年前より後継者の皇太子殿下に譲る決意をなされたため、政府また国会も超党派で慎重に協議・検討を重ねた結果、天皇の退位等に関する「皇室典範特例法」を衆参両院出席者全員の賛成により成立させ、現行の天皇終身在位を原則的に残しながら、特例として天皇譲位でなく退位を可能とさせ、四月三十日の「退位礼正殿の儀」を国事行為として実施したのである。

ついで翌五月一日午前零時に皇太子から天皇になられた新陛下が、午前、正殿にて神道に係る重要な「剣璽」を受け継がれた。その「剣璽等承継の儀」の「剣璽」は、古来から神道（日本固有の民族的信仰体系。一般に神社を中心とする信仰や儀礼）でいう「三種の神器」（皇位のしるしとして継承される八坂瓊曲玉、八咫鏡、天叢雲剣のこと）の中の「宝剣」と「勾玉」であり、「等」とは国事行為に押される公印（金印）の「天皇御璽」「大日本国璽」をさす。これらの物は皇位と一体不離で、「皇室経済法」の第七条で「皇位とともに伝わるべき由緒ある物は、皇位とともに皇嗣がこれを受ける」と定められている。

先ほどの「劍璽等承継の儀」により、名実ともに第一二六代天皇となられた新陛下は、十月二十二日の即位礼、十一月十四日の踐祚大嘗祭（悠紀殿の儀・主基殿の儀）を皇居にて執り行われることになっている（即位礼・踐祚大嘗祭を併せて御大礼という）。特に天皇即位後初めての新嘗祭（天皇が新穀を天神地祇に供え、みずからもそれを食する祭儀。現在の祝日である勤労感謝の日に斎行）を一世一度の大規模な祭として行うことを「踐祚大嘗祭」と呼び、通常の新嘗祭と区別している。

即位礼と大嘗祭の間隔をあげた事由は、大正大礼の際、当時貴族院書記官長で大礼使を務めた柳田国男（民俗学の創始者）が、即位を内外の人々に華々しく披露する即位礼と、毎年の新嘗祭を大規模にして神々に感謝し祈願する厳かな大嘗祭とは間隔をあげて行う方がよい（大嘗祭二関スル所感）、と提言したのが始まりである。

御大礼を終えられた天皇・皇后両陛下は「親謁の儀」（親ら参拝し、皇祖・皇宗四代の天皇に即位を奉告すること）を行われます。その儀は劍璽を伴い、外宮・内宮の順に伊勢神宮に御参拝され、天照大御神にその旨を御奉告されます。また、初代神武天皇、そして近縁の天皇がお鎮まりになる御陵にも御参拝され、御大礼を無事終えられたことを御奉告されます。

五月からの御代替り行事の多くは敬神崇祖の神道の神髄であり、日本国民である私どもは、全ての行事が恙なく執り行われるよう祈念してやまない。

ところで、日本の過去の多くの元号は漢籍古典（四書五経）や歴史書など、中国の古典から引用）を典拠にして採用されていたが、この度の新元号「令和」の出典は始めて日本の古典である『萬葉集』から採られた。

『萬葉集』巻第五（日本古典文学大系・岩波書房）の梅花の歌三十二首の序文（作者は山上憶良説などがある）一行である「初春の令月に



賢所参拝を終えられた両陛下

（榊扶桑社『皇室Our 意Imperial Family』より転載）

して、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は瓊後の香を薫す」の令月の「令」と風和ぎの「和」を引用して「令和」とした。

安倍首相は記者会見談話で、令和について「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ、という意味が込められている」と説明したが、序文のこの一行では首相談話の意味を窺うことは出来ない。

そこでいささか長くなるが、序文の全文を現在語訳（『私の万葉集』大岡信著、講談社現代新書）でみると、「天平二（七三〇）筆者挿入）年正月十三日、大宰大伴旅人卿の邸宅に集まって宴を開いた。時は、初春のよき月、気は澄んで快く、風は穏やか。梅は鏡の前の白粉のように白い花を咲かせ、蘭は白い袋の香のように良い香りを発している。加えて、夜明けの峰には雲がかかり、松はその雲の薄絹をかけて、あたかも蓋を傾けているようだ。夕方の山の頂きには霧がかかり、鳥はその霧のうすものにとじこめられて林中にさまよっている。庭では今年の新しい蝶が舞い、空には去年来た雁が北に帰ってゆく。そこで天をきぬがさにし、地を座席にし、膝つき合せて盃をにぎやかにかわす。一室に座してはうつとりと言葉も忘れ、煙霞の彼方に思いをはせて互いに胸襟をひらく。淡々としておのずから各人気ままに振舞い、心楽しく満ち足りた思いである。もし文筆によるのでなければ、どうしてこのような情緒を述べることができよう。漢詩にも梅花の散るのを詠じた詩篇がある。昔も今も、いったい何の違いがあるろうか。さあ、われらもよろしくこの園の梅を詠じて、いささか短い歌を作ることしよう」とある。

この全文を簡略すれば、大伴旅人が大宰帥として大宰府にいた時、部下の諸官諸役（三十二人）を招いて催した時の、漢詩ではなく和歌の集団制作で庭に咲く梅の花を題材に歌一首つづを詠みあつたもので、この全文を読むことにより、安倍首相談話の全文の中で『萬葉集』のことに触れ、「悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然、こうした日本の国柄をしっかりと次の時代へ引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいとの願いを込め、『令和』に決定した」を理解することができる。

（令和元年九月 記）

平成三十年十一月

七五三詣祈祷齋行

十一月中、七五三詣祈祷を齋行した。近年子供さんの貸衣装予約の關係か、早々と十月に参拝されるご家族もある。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拜殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチヤ・風船・おみやげセット等の他にキャラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

土・日・祝日に限らず期間中には会館二階に特設写真スタジオを設け記念写真を撮っていただけるよう設備しています。



特設スタジオでの記念写真

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。但し、七五三詣・お宮参りの写真スタジオご希望の方は、必ず予約をお入れください。

神戸小売酒販組合・酒徳祭参拝

神戸小売酒販組合は県の小売酒販・酒販協同組合連合会に属した神戸市内の酒屋さんをはじめとする酒類の小売業者の組合で、その事務所は中央区下山手通にあつて、事務所屋上にお社（京都・松尾大社大神）を祀り毎年十一月に酒徳祭を齋行していたが現在建物を新たに建築中であるため、ご神体を当社に遷し祀っており、この度の酒徳祭参拝となつた。

七日、三橋理事長他役員など十三名が、過日松尾大社よりお受けした新神札をご神前に奉奠し玉串拝礼して、今後さらなる組合の発展と新事務所建築安全をも祈願した。



参拝後の記念写真

崇敬者による 稲荷社の鈴・鈴緒奉納



三好稲荷神社の鈴緒は十六年前に兵庫区湊川町八丁目の崇敬者から奉納されたものであつたが、長き年月の経過で鈴（破損）・緒共々に損なわれていたところ、崇敬者（氏名不詳）から新鈴の新規奉納と、さらにもうお一方の兵庫区吉田町一丁目の崇敬者ご夫妻（匿名希望）から緒の新調奉納のお申し出があり、十八日に付け替え奉納が執り行われた。

平成三十一年一月

柔道選手・阿部兄妹 今年も必勝祈願参拝

初詣で賑わう一日、御祭神・神功皇后の勝運神徳の御守護もあつて、二〇二〇年開催される東京オリンピックの柔道女子五十二キロ級の金メダル候補として注目される阿部詩

（夙川学院高校）選手、兄で六十六キロ級の一二三（日体大）選手が今年も必勝祈願参拝した。

祈願絵馬に阿部詩選手は「世界選手権『挑戦』二連覇!!」と書き、一二三選手は「勝負に勝ち続ける」と願つて絵馬賭けに吊るした。

本年八月に東京で開催された世界柔道選手権での結果は、阿部詩選手は祈願絵馬に書いた通り見事二連覇の優勝を成し遂げたが、一二三選手は三位であつた。



阿部兄妹の祈願絵馬

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭齋行

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十名の参列のもと厳かに齋行され、今年一年の参列者各位はもとより、氏子崇敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願

した。

本年の神前奉納は、県下三か所所
でフランメンコ教室アンダーを主宰し
ている藤井清美先生と野村美穂先生



ご神前でフランメンコ

のスペイン舞踊(フランメンコ)は踊り
曲のこと「ソレア」である。

「ソレア」は、孤独の意味で「フ
ラメンコの母」とも呼ばれる代表的
な曲種で、深い悲しみ、嘆きを秘め
て激しく情熱的に踊ります。

初めて観賞する参列者もスペイン
舞踊・フランメンコ(踊り・野村美穂
先生)の目の動き、指の動きなどの
細部まで感情が表現されている踊り
に盛大な拍手を送った。

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、
鳥居前にて記念写真を撮り直会に
入った。



鳥居前での記念写真

平成三十一年二月

新造船神棚入魂修祓式齋行

二十七日、金川造船(株)荻藻島工場
にて、(株)商船三井発注の関西で初め
ての液化天然ガス(LNG)を燃料
とし大阪湾で運航(運輸・日本栄船
(株)される曳船(タグボート)「い
しん」が引き渡された後、操舵室に
新設された神棚前で入魂修祓式が齋
行された。

金川造船(株)は、年間十二隻ほどの
重油を燃料とする曳船を建造してい
るが、重油と比べ二酸化炭素(CO
2)排出量を25%減らせる環境負
担軽減のLNG燃料船建造は初めて
であった。

尚、「いしん」引き渡しのこと、
三月一日の「神戸新聞」朝刊・地域
経済欄で報道された。

更に(株)三井商船はLNG燃料タグ
ボート「いしん」の金川造船(株)での
建造から竣工引渡式までの様子をま
とめた動画総集編をYouTube
で公開している。



報道された新聞記事

令和元年五月

天皇陛下御即位踐祚改元

奉告齋行

一日午前八時、月次祭に合わせ、
宮司・禰宜が天皇陛下御即位踐祚改
元奉告祭を齋行した。

この日、皇居における「剣璽等継
承の儀」、「賢所の儀」、「皇霊殿神殿
に奉告の儀」、「即位後朝見の儀」に
より新帝陛下が御即位されました。

当社神殿での「天皇陛下御即位

踐祚改元奉告祭」では、「明御神と
大八洲国知食す天皇い皇室の
おほみのり、まにまにこのすめらみこと、あまつつづき
大典範の随に今回上皇の天津日嗣
の大御蹟を承継き給ふに依りて知食
おほみのり、まにまにこのすめらみこと、あまつつづき
す大御代の名も令和と定まりぬ故此
の事の由を告奉らるべく御祭仕奉る状
を平らげく安らげく聞食して天皇の
大御代を改元する旨を御告げ奉る
とき、いしんは、おほみのり、まにまにこのすめらみこと、あまつつづき
常磐に齋奉り幸へ奉り給へと恐み恐
みも白す」と、祝詞で新しき「令和」
という元号に改元される旨をご神前
に奉告し、この令和の御代が安寧に
続くことをお祈りした。

また、この日より殿内に「萬歳
旗」(上部の水の流れの中に、五匹
の鮎と一つの巖釜(神酒を盛り、祭
祀に用いる神聖な土器)が描かれて
いる。鮎と巖釜は『日本書紀』巻三
に、神武天皇が御東征の時、戦勝を
神祇に祈り、巖釜を丹生川にせずめ
たところ、大小の鮎が酔って浮かび
あがってきた吉事に由来する)旗幟
を、境内には「奉祝 天皇陛下御即
位 令和 新しい御代をお祝いしま
しょう」の幟を掲示して奉祝した。
尚、六月二十日、閣議決定した「御
即位に伴う式典委員会」は即位礼正

殿の儀の宮殿の装飾で「萬歳簾」を設らえることを決定した。



社殿（拝殿前）の鈴緒房更新奉納

八日、当社を崇敬する三菱重工業（株）神戸造船所並びに氏子の元総代片田勇氏（小松通五丁目）より本殿鈴緒の網・麻房が更新改修奉納された。本殿に向かって右側の三菱神戸造船所の奉納鈴緒は、二三〇日間完全無災害達成記念御礼として社員一同の名で昭和五十九年に奉納されたもので、平成二十四年にも麻房の更新改修奉納された。また、左側の片田氏奉納の鈴緒は平成九年に奉納され、平成十五・二十・二十四年にも改修奉納されていたが、共に参拝者が振り鳴らす歳月の経過により損傷していたので、この度更新改修奉納された。例大祭前の真新しい紅白麻房等の更新奉納により、多くの例大祭参拝

者も清々しく参拝されたことでしう。



更新奉納された鈴緒網・麻房

例大祭と神幸式齋行

大祭前の五月十八日、猿田彦担当地区総代二名・猿田彦会会長ほか四名計六名参列のもと、加古郡播磨町南大中の杉本拓也君（二十六歳）の猿田彦決定奉告祭が齋行された。

大祭日の二十四日（金曜日）、午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者十六名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納し厳肅に齋行した。後、会館二階にて三菱電機（株）神戸製作所総務課原主任の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。

二十五日（土曜日）午前八時より、各地区お旅所の入魂修祓式を齋行し、

午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により「奉祝 天皇陛下御即位 令和 新しい御代をお祝いしましょう」の幟を掲げた子供みこし四基が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子町内を巡幸、午後四時を以って無事終了した。例年通り事故の無きよう各子供みこしには自社雇のガードマン五名や、兵庫警察署派遣の五名の警察官らが警備と交通整理にあたった。

二十六日（日曜日）、五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく齋行された。午後一時半の殿内発興祭齋行後の二時前よ

り、杉本拓也君扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、直垂装束姿の総代や、和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十三名、吉田中学校生男女三十六名（男子九名、女子二十七名、付添先生六名）による本神輿昇上げ役、宮司太刀持役である兵庫区御崎本町二丁目の平井凌輝君（和田岬小六年）も父親共々に行列に加わり、その後に各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が出発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。沿道見学の氏子の人達も、黄色い声を張り上げる女子中学生の参加した本神輿行列に元氣と希望をもらったと感激していた。



三石神社例大祭 神幸式記念 令和元年5月26日



三石神社例大祭 神幸式記念 令和元年5月26日

スタジアム前での記念写真

午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕の総代始め氏子三地区の人達又猿田彦会員達約四十名の出席による合同直会が開催され、無事神幸式が齋行できた喜びで盛り上がっていた。

令和元年六月

氏子崇敬者親睦旅行



方違神社前での記念写真

本年の氏子崇敬者親睦旅行は、大阪府堺市方面への日帰りバス旅行を実施した。

十六日、宮司を含め総代・氏子崇敬者二十八名（北部氏子会十名・南部氏子会七名・東部氏子会四名・崇敬者六名）の参加のもと、現地専任ガイドの案内により先ず堺が生んだ茶の湯の大成者・千利休の茶の湯館と、日本近代文学を切り拓いた歌人と、謝野晶子の記念館など歴史・文化・観光施設である「さかい利晶の杜」を拝観し、立礼茶席でお点前による菓子や茶の湯を体験し、隣接する千利休屋敷跡も見学した。後、河内・和泉・摂津の三国の境に鎮座し、方

除祈願で有名な方違神社を参拝した。

次に南宗寺に向い、国指定重要文化財の甘露門（山門）・唐門や千利休一門の供養塔、伝説の徳川家康の墓や石庭（枯山水）などを拝観した。

シテイホテル青雲荘での昼食は、はかり目御膳とも称されるあなごつる料理の美食に一同ご満悦であった。お買い物に堺伝統産業会館に立ち

寄った後、大阪市北浜の幕末の洋学研究（蘭学塾）の第一人者である緒方洪庵旧宅の史跡・適塾（重要文化財）を見学し、最後にあべのハルカス三〇〇の地上三〇〇mの展望台景色を楽しんで全ての旅程を終え帰神した。

令和元年七月

安産ご神徳由来の碑の高札掲示

境内に昭和三年に「神港助産婦会」が手水舎を建立奉納した記念石碑がある。これは当社のご祭神・神功皇后の安産ご神徳報恩のための碑であるので、参拝者に広く知らしめるため、この度左記の通りの説明高札を四日に建てた（既刊二十号で説明済み）。

「安産ご神徳」由来の碑

この石碑は、昭和三（一九二八）年五月に「神港助産婦会」が、手水舎（参拝者が手を洗い口をすすいで清浄になるための水盤建物）を建立奉納した記念の石碑である。

助産婦は、妊婦の正常分娩の介助をはじめ新生児の保健指導などの業をする女性のことで、古くは取り上げ婆さん・産婆と呼ばれていた。

「神港助産婦会」の神港は、神戸港を略した言葉で神戸市のこと。昭和初期ごろより神戸市内にも多くの助産婦さんがいて、その唯一の組織会が「神港助産婦会」であり、その会の総意を以って、当社ご祭神・神功皇后の安産神徳報恩のために手水舎を奉納したもので、当社が古来からの安産ご守護の神社であることを物語っている。

当時の手水舎は戦時中の昭和二十（一九四五）年三月の神戸大空襲で焼失し、戦後木造で再建されたが老朽したため平成五（一九九三）年に新しく建立したものである。

夏越祭（夏祭り）斎行

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神の夏越祭（茅の輪くぐり神事）を斎行した。

十七日午後六時から殿内祭典には、総代・氏子崇敬者十九名参列のもと、宮司が大祓詞・祝詞奏上の後、例年通り玉城流隆扇会上野順子琉球舞踊研究所による琉球舞踊二曲（四



安産ご神徳由来の碑と説明高札



茅の輪くぐり神事

つ竹踊り・汀間当が神前奉納された。「四つ竹踊り」は、琉球王朝時代の宮廷舞踊の一つで、紅型衣装に花笠をかぶり、四つ竹を打ち鳴らしながら、栄えある席に出ることを許された無上の喜びを表現した古典女踊りである。

二曲目の「汀間当」は、王府時代の役人と、村の美女の恋物語を舞踏劇にした、「姉子踊り」を芝居心たつぷりに軽快に踊る女踊りである。琉球舞踊神前奉納の後、参列者代表各位が玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪ぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が『拾遺和歌集』に収められている古歌「水無月のなごしの祓する人は千歳の命のぶといふなり」をはじめ、「思ふこと皆つきねとて麻の葉をきりにきりても祓ひつるかな」・「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左と三度ぐぐり、人が知らず知らずのうちに犯した罪



神前奉納の琉球舞踊



や過ち、心身の穢れを祓い清め、夏の無病息災を祈願した後、会館二階にて三菱神戸造船所酒井総務グループ長の挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、和やかな雰囲気の中、参列者は神職手作りで無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を授与されお開きとした。

尚、茅の輪の起源は、『備後国風土記』逸文に、ある時蘇民将来と巨旦将来の兄弟が素戔嗚尊（武塔神とも）が宿を求めた際、裕福な弟の巨旦は断つたが、兄の蘇民は貧しいながらも快く泊めて厚くもてなしたので、尊は蘇民の一家に茅の輪を渡し、「もし疫病が流行したら、その茅の輪を腰につけなさい」と言って去りました。数年後疫病が流行した際、蘇民は尊の教えの通り茅の輪をつけたので疫病から逃れることがで

き、家は栄え子孫繁栄した。この故事に基づき茅の輪神事が執り行われるのです。

令和元年九月

西宮神社海上渡御産宮参り

二十三日、商売繁盛の神で知られる西宮市の西宮えびす神社（西宮神社）の二十回目の大規模な記念海上渡御「産宮参り」三石神社参拝が予定され、当社猿田彦会の奉仕により猿田彦の奉迎舞い奉仕を披露するとしていたが、台風十七号の海上風波のため残念ながら中止となった。

そもそも二十年前から齋行された西宮神社の和田岬への船渡御は、平安時代から行われていたが、織田信長の社領没収で途絶えていたものを約四〇〇年ぶりに復活させたものである。

ところで、当社への産宮参りの由来は『西宮神主家日記・西宮大神本紀』（江戸時代の宝暦五（一七五五年）の絵に神輿が兵庫和田崎に御駐輦の処を描き、御輿三輿をそれぞれ奉安せる三つの石が描かれている。即ち廣田・西宮・南宮三社の神輿で

ある。これを三つ石と呼称したと記されている。

さて、海上渡御が中止となった当日午後一時半、当社総代・氏子自治会長・猿田彦会員等十名が参道で奉迎する中、西宮神社吉井宮司・同清水神社総代・奥山権禰宜の三名に続き全員が昇殿し、修祓を受けた後、西宮神社宮司、当社高田総代等が玉串拝礼参拝した。参拝を終えた後、鳥居前で一同記念写真撮り、次なる真光寺・柳原蛭子神社参拝に向かった。

当社では全ての奉迎・送迎行事が終了後、会館にて直会を執り行い一同を慰労した。



西宮神社和田岬海上渡御産宮参り（中止）参拝 令和元年9月23日 三石神社

参拝後の記念写真

令和元年十月

三菱神戸造船所内Fビル

地鎮祭齋行

二十五日の大安日、三菱重工神戸造船所内で六十名参列のもと、Fビルの建築地鎮祭が斎行された。

このFビルは鉄骨造十二階建ての事務所ビル（建築面積四、一一二・三四㎡、延床面積四七、五四九・五七㎡）で、当日は設計者のMHIプラントエンジニアリング&コンストラクション(株)の大平取締役社長が刈始めの儀、施主の三菱重工業(株)小口取締役副社長執行役員が穿始めの儀を執り行つて、齋主（神主）の鎮物の儀の後、清水・MHI・PEEC建設工事共同企業体の代表として山地清



三菱重工業(株)提供

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約五十年となります。

銅板の寿命は約五、六十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に銅板寄進（一枚二千円）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。ご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりましたことをご了承下さい。



境内の奉賛芳名掲示板

当社で命名に関係されたお子様のお健やかなご成長をご祈念申し上げます。

新生児命名

平成三十一年十一月から令和元年十月末日まで

シリーズ

社務所・境内紹介

百度石は社寺などの境内にあって、百度参り（お百度参り、お百度を踏むともいう。一度だけのお参りでなく百度参ることにより、信仰心の篤さや祈願の切実さを訴えて神仏の加護や霊験を得ようとするお参り方法）で本殿・本堂との間を往復する際の標識石のことである。

当社の百度石は本殿前の参道に置かれている。高さ約1m・奥行約三十cm・最大幅約五十cmで上部に行くほど細くなり最上部は約二十六cmの自然石（変形おむすび型）の花崗岩である。裏側左下部に盃状穴（信

仰の対象物及びその附属の石造物に何事にもくじけない強い意志、何らかの信念で人為的に石に穿いた痕跡（凹穴）をいう）も見られる。

表面に「百度石」、右横に二行で「奉獻 皇紀二千六百年記念」・「神崎亀太郎」と行書体で刻されている。

建立年は皇紀（紀元と同じ）二千六百年記念とあるところから昭和十五（一九四〇）年で神武天皇の即位（紀元前六六〇年）から

前記以外参拝・祈祷時などの奉獻

二六〇〇年に当たる即位紀元（皇紀）二六〇〇年を祝つての奉獻建立である。奉獻建立者の神崎亀太郎氏については居住地等現在まで不詳であるが、当時の氏子と考えられる。

尚、政府は昭和十五年が皇紀二千六百年に当たることから昭和十五年より祝典準備委員会を発足させ、様々な国家的記念式典・行事・事業を推進し、昭和十五年には全国各地で記念行事が催され国民の祝賀ムードは最高潮に達したとの記録がある。

シリーズ

書籍に見る三石さん



百度石

『にほんのかわいいおまもり』

本書は(株)白夜書房から平成十七年十二月に発行されている(定価本体一、五〇〇円+税)。編者は、にほん授与品研究会である。

本書の帯表に、「こんなおまもり知らなかった!見た目も効き目も最高の、たのしいかわいいおまもりを日本中から集めました。虫歯に効く、ぐつすり眠れる、料理上手になる、きれいになる、玉の輿に乗れる、地震に遭わない、大物を釣り上げたい、ファンタジスタになりたい、など」と記され、帯裏には「願いごとの目的に応じて、持ちたいおまもりが見つかる!この本には、こんな願いごとを助けてくれるおまもりが載っています」とも記され、内容は全国の神社仏閣のおまもりが、出会い(えんむすび・良縁・夫婦円満)、幸せ(開運・厄除け)など九項目に分けられ、

それぞれのカラー写真おまもりを載せて簡単な由緒・由来も説明されている。

当社のおまもりは「女性のおまもり」子宝・安産のおまもりページに掲載され、御祈祷の際の旧御守り写真と、「神功皇后が三つの石を持って安産を祈ったとされ、安産の神様として名高い三石神社。霊験あらたかな『安産御守』は、代々皇太子妃の安産祈願のため献上されている。安産祈禱の際に授与されるおまもり」と由来説明文があり、さらに錦



の新御守りには「おまもりに入った三つの石は、生まれてくる子供の性別を占うためにも使われる。白い石が二つならば男の子、黒い石が二つならば女の子が生まれるそう」とも記されている。

巻末の索引には地図も載せられ、神社の住所・電話番号・ホームページ

ジアドレスなども記載されている。

令和二年の神社神事・行事予定

- 一月 一日 歳旦祭(初詣)
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭

献茶神前奉納

裏千家茶道家 四方宗代先生

- 五月二十二日 例大祭

二十三日 地区子供みこし巡幸

- 二十四日 神幸式(おわたり)

- 六月十四日 氏子崇敬者親睦旅行

- 七月十七日 夏越祭

(琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり)

十八日 (茅の輪くぐり)

- 九月二十三日 西宮神社産宮参り

- 十月十八日 秋祭(天照皇大神祭)

- 各月一日 月次祭

- 十一月 中 七五三詣

三石神社諸祈禱ご案内

【殿内個人祈禱】

(殿内における各種祈禱)

家内安全、病氣平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈禱】

(会社・事業所団体祈禱は事前ご予約願います)

【出張祭典】

(諸準備の為、事前ご予約願います)

起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他(含 神葬祭)

服忌について

家庭にご不幸があった場合、一般的には五十日間を忌中として故人を偲び、神棚に半紙を貼るなどしておまつりを遠慮します。

忌が明ければ神棚もおまつりし、通常の生活に戻ります。忌の期間が正月をまたぐ場合は、忌が明けてから神社の参拝、また、お神札を受けるとも差し支えありません。

なお、親戚の方が亡くなられた場合は、お葬式を出したお家でなければ、葬儀告別式後通常のおまつりをして問題ありません。詳略は当社にお尋ね下さい。

印刷所

(有)前川企画印刷

神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一

TEL (〇七八) 五七七一・二四八八

FAX (〇七八) 五七七七一・七三〇〇